



TITLE:

# 最近化学工業の發達

AUTHOR(S):

喜多, 源逸

---

CITATION:

喜多, 源逸. 最近化学工業の發達. 化学研究所講演集 1929, 1: 12-12

ISSUE DATE:

1929-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/73506>

RIGHT:

## 最近化學工業の發達

所員 工學博士 喜 多 源 逸

(通 俗 講 演)

要旨 經驗により發達し科學の應用の未だ充分でない工業もあるが一般に化學工業の進歩は急速であるから其研究が甚必要であり研究の結果從來の方法が改良せられるのは勿論新工業の興る例も尠くないこと。

新工業の興つた例として染料工業は從來よく知られたものであること最近の例としても澤山あるが著明な數例を擧て説明した。

硬化油工業 Sabatier の研究 Normann の考案で魚油が貴重な脂肪原料となつた事、將來の發展策として研究すべき方面に就て述べた。

アムモニア合成工業 Haber-Bosch の研究と方法の原理を説明し Claude, Casale 法等により更に有利に發展したる事を述べた。

液體燃料合成問題 石炭より液體燃料合成の意義 Bergius, Fischer 及 Partart の研究成績の説明 安價な水素を製造する方法

石油分解工業 Cross 法の説明

此等の高壓工業の進歩は特に注目すべきこと 裝置製作の問題

ヴイスコース人絹 將來に關する私見並に著者の研究結果一斑 研究の餘地多きこと最後に化學工業の研究は諸方面に涉らねばならぬ事。大成功は一朝一夕で舉げる事は出来ない長い苦心と努力が必要であり設備と費用と人材を得なければならぬ事。研究所は研究結果により直接工業の發達を計る外に人材を養成する貴重な職務を持つて居る事を附言した。